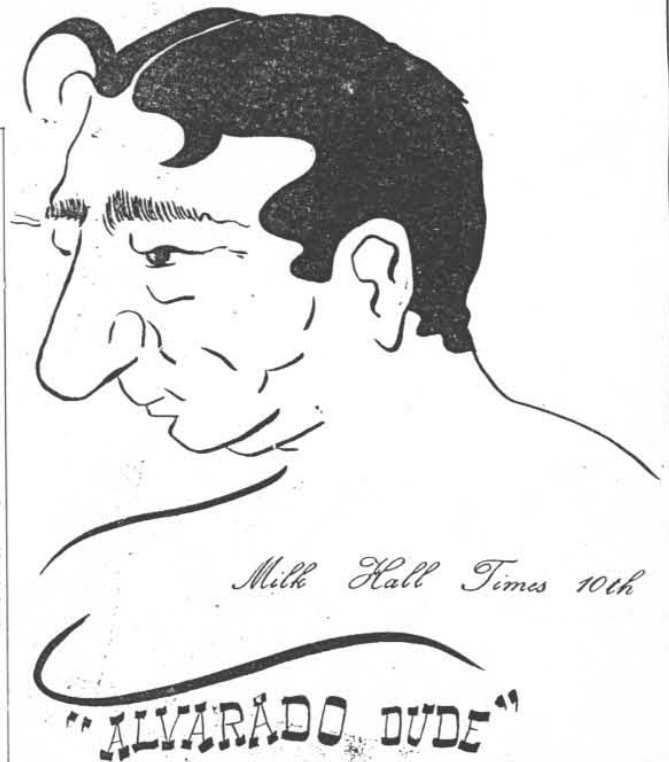


MEMORY

今もって不思議に思う事なのですが、確かに私は、15年前別の世界からここへ来たのです。それは確かな事なのですが、なにせこの世界に居ついてもう15年余りの年月が経ってしまつて私の記憶ももうそんなに定かではなくなつて来ています。それに、この話をしても誰も信じるわけではないのでまだ誰にも話した事は在りません。誰にも話した事が無いような事は大抵月日が経つにつれて忘れてしまうものです。そしていつの日か、あれは、私の思い違いだったと、思い込むようになってしまうものなのです。ただ私がその事を今も記憶にとどめている訳は、前に私が居た世界には懐かしい思い出が在るといふばかりではなく、そこには、今こうしている間にも感じている空気と全く違った空気が在ったからです。そうでもなければこんなに強く今も記憶にとどめている訳がありません。そこはどんな世界かといへば、ごく普通のあたりまえの世界です。私はそこで生まれ15の歳まで過ごしました。私がこの世界に来たのはその年のお葬式の晩です。多分そうですがそのまへの晩だったかも知れません。とにかく私を生み育ててくれた母が亡くなった頃です。その時の事は忘れもしません。突然、体が別の世界に持って行かれたのを感じ、その時はああ夢を見ているのだと思つたのですが、色々なひとの泣声や慰めの言葉に、夢ではないのに気が付きました。そして別の世界に来てしまった事に気が付いたのです。朝日が白くてまぶしくてたまらなかつたのを覚えています。その時はなんとなくすぐまた前の世界に帰れるんだと思つていました。

あの日からもう15年経ちました。最近ではもう帰れないものと諦めています。近くでお葬式などが在った時などはつい懐かしく思い出しますが、

先日私の生まれた家を訪ねました。住む人も無く荒れ果ててはいましたが、私の記憶の通りの姿で建っていました。古びたカーテンも、割れたガラス窓もそのままに・・・私の様に鮮明ではないにしても、こんな記憶をお持ちの方は他にもいらっしゃるのではないのでしょうか。私の様に帰れなくなってしまつて住み着いてしまつた方、きつとどこかにいらっしゃるのではないかと思います。



RAIN

その1

昭和二十三年六月十九日

その日は、実にひどい雨だったことを思い出す。前日から止む気配もなく降り続いていた梅雨というよりも、もっと**重く**感じであった。(中略)死体は何処にあるのか！僕はその三人の近くを眺め回した。(中略)「引き揚げた時、太宰先生と富栄さんの腰に、赤い腰紐が結ばれていたのですが、その紐はナイフで僕が切りました。山岸さん。このことは誰にも言わないで置いて下さい」K君が早口でそう言った。『山岸外史「人間太宰治」より』

その2

まさか、あいつが本当に死ぬなんて思つてもいかなかった。あいつは、確かにいつもクスリを持ち歩いていた。睡眠薬なんだと本人は言っていた。これを持っていると、いつどんな事があつても自分の力で死ぬからだそう。そのくせあいつは、およそ自殺だの睡眠薬なんて似合わない奴だったし、事実、そんな薬なんて使わなくても何処でだつてすぐ寝ちゃうような奴だったし、あっけらかんとしてこいつに悩まされてあるんだらうかと思わせるような奴だった。ああいう奴程自殺なんてしないものだ、きつと八十まで生き抜いて、老衰で死ぬのが落ちだつて皆そう言つて影口たいた。ところが、ある雨の日、その日は朝からずつといやな雨で、出掛けるのもおっくうな日であつた。そうしたらあいつが救急車で病院に担ぎ込まれたという電話が入つた。僕が病院にかけた時は奴は既に息をきつていた。睡眠薬の飲み過ぎだつた。まさか、あいつが本当に死ぬなんて思つてもいかなかった。僕は今でも思つている。これはあいつの冗談だつて、そして全ては僕と奴の思い過ぎだつた。・・・

その3

夜になって突然、すごいしゃぶりになった。今しがた終電に乗り遅れた友人を、ジープのオープンカーに乗せて送り出したところだつた。借物のジープで、さぞ途方にくれているだろうなんて話合つていた。翌朝、随分早い時間に電話が鳴つた。昨日の彼である。大変だつたでしよ。ああそれより、昨夜あの時間にS君が、目の明治通であの雨の中ハンドルを切り損ねて大事故だつたらしい。S君はたぶんもうだめだ。彼女はたいしたけがもなかつた。そんなわけだから今日は仕事に出られないよ。そうそう車は今日中になんとか持つてくからさ。しゃあね。え？・・・

DARTS

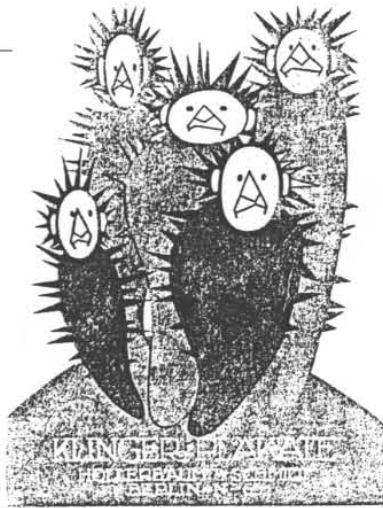


6月6日7日サンシャインシティ噴水広場にて、JDA主催日本ダーツ選手権大会が行われました。
MEN'S SINGLES
WINNER ロベス 2年連続優勝
WOMEN'S SINGLES
WINNER 小野聡子 初優勝
OPEN DOUBLES
WINNERS 被部弘・ロベス 以上の結果でした。

JDAには、公式試合出場資格を持つ選手が1500名余おられますが、新人の選手を育成し毎年数名の選手を世界の大会に送り出しています。ミルクホールでも、毎週JDA公式試合が行われており、過去にはミルクホールのチームからも何人かの選手が世界大会に出場しました。JDAでは、これからダーツを始める方の為に、トライアル会員や、学生会員を募集し指導しております。ダーツは誰にでもできるスポーツですが、始めての方には少々とつきにくいルールや、点数計算、マナーなどがあります。ダーツをやつてみたい方は是非正しいゲーム方法をミルクホール従業員に聞いてみて下さい。誰でもが見慣れているはずのダーツボードに不思議な魅力の新しい世界を発見することでしょう。

MILK HALL TOURNAMENT
1987 SUMMER

7月某日、ミルクホールトーナメントを開きます。前回と同じハンディ戦です。誰にでもチャンスがあります。初心者の方、奮つて御参加下さい。



COLUMN

少し前、ラヂオが午前3時を知らせた。まったくいらぬおせっかいだ。キ帳面な僕は部屋にある4つの時計の長針を進めたり戻したりしなければならぬ。それにしても今夜は静かで、もう夏が近いというのにまるで初冬の時分のような。

こんな晩は書生を気取り、ちょっと文でも書いてみようかしらなんて気になる。

気が付くと、すすけたドアを無理矢理壁に打ち付けたような喫茶店の前にいた。それを少し肘に力を込めて押し開く。中は薄暗く、カビ臭い空気が私の顔をのぞきつつんだ。いつもの席に着く。このテーブルは6人用で、1人で使うには充分過ぎる程大きい。こんなスペースを独占しているという罪悪感にかられなくてもすむ様にこの店には客が少ない。少ないというより、見渡したところ人と思しきは私一人である。横には、彫りの深い石膏像が白日を剥いて首を回している。物音もしいない。開えるのは、多分さほど遠くない所で鳴いているのであろう犬の声だけである。

私は、欠伸をひとつした。ここまで書き終えて、僕にはもしかしたら小説の才能があるのではないかと思つた。しかし、夜中にひとりてこんな事をしているのは全くつまらない。ああ、誰か私を書いてくれるのを見て「小説をお書きですか。」なんて言つてくれないかしら。そうしたら僕は間髪を入れずにこう云うだろうに「いや、つまらぬ雑文ですよ。」と

INFORMATION

MILK HALL TIMES編集部より
★MILK HALL TIMES定期購読者募集
御希望の方は住所、氏名と60円切手12枚(又は720円)をカウンターの方へお申し付け下さい。郵送でも結構です。
MILK HALL TIMESを毎月郵送させていただきます。
★編集部員・投稿記事募集
取材などを手伝つて下さる方を捜して居ります。又、走り書きで結構です。面白い出来事、思い着いた事、ビックリした事、頭にきた事、などなどお寄せ下さる様お願い致します

ミルクホールタイムスを御愛読下さいまして有り難う御座います。先月号は編集部の都合により勝手に休刊させて頂きました。最近では読んで下さる方が増え発行部数も五百部を超えるようになりとても嬉しく思っています。読者の方々より御投稿頂くこともたびたびあり、随分助けられています。6月のオークションなど、中止された催事が有つた事を深くお詫言致します。各催事は企画立て直しの上再開致します。

伝言板
福知山のエルちゃん、お手紙の返事遅くなつてごめんね。忘れてた訳じゃないです。毎日書こうとしてたんですけど、これからずつと書くからもし住所が変る事が有つたら絶対に知らせてね!